

私の履歴書



EPISODE6

～日本の知見を活かしたフィリピン獣医師の挑戦～



Dr. Baracao Jeanette, D.V.M.

(バラカオ・ジャネット獣医師)

Principal Veterinary Officer
Isabela Animal Disease Diagnostic Laboratory
Provincial Government of Isabela

口蹄疫という家畜の病気を知っていますか？

世界中に蔓延している口蹄疫という家畜の病気があります。感染力が非常に強く、一旦発生すると瞬く間に広がってしまうため、日本やアメリカ、オーストラリアなど、発生のない国では常に監視体制が取られています。オーストラリアに入国する際、食料品の持ち込みが一切禁止されているのはこの感染症防疫のためです。日本でも2000年3月に92年ぶりに発生しましたが、この時はさいわい4戸の農家に留まりました。しかし2010年3月にも宮崎県で再発生し30万頭近くの家畜が殺処分され、1,400億円の損失を出して大騒ぎになりました。覚えておられる方も多いでしょう。東南アジア諸国でも未だに発生が続いていますが、その中でフィリピンは2005年12月の発生を最後に約5年6カ月を経て2011年5月、国全体が口蹄疫ワクチン非接種清浄国として認められ、現在に至っています。日本と同じ島国であるため、封じ込めが比較的容易だという有利な点もありますが、同じ島国のインドネシアでは未だに撲滅できていないので、やはりフィリピンは東南アジア諸国の中でも優等生と言えるでしょう。

ジャネット獣医師の生い立ちは

ジャネット獣医師はそのフィリピン北部に位置するルソン島のイザベラ州南部のエチャゲという街で生まれ育ちました。幼い頃から動物が好きで、同じく動物好きな人たちと動物たちの命を守るために何か意味のある行動を起こそうと思い、強い情熱に突き動かされて獣医師を志すことになりました。イザベラ州立大学の獣医学部で学び2017年に卒業、同時に国家試験にも合格して晴れて獣医師となりました。就職先はイザベラ州政府、獣医技官として働くことになりました。そして2023年、職場の上司からJICAの課題別研修コースを紹介され、応募を決めました。(写真右:フィールド活動中の様子)



日本での研修に参加して



参加した研修コースは「家畜疾病の診断とサーベイランス(疾病監視)のための基礎技術強化」というコースです。つくばに位置する動物衛生研究部門という、家畜衛生分野では日本でトップの研究機関が実施しています。期間は2024年6月から10月までの4ヶ月間、フィリピンで育ったジャネットさんには日本の暑さは慣れたものでした。このコースでは最初の2ヶ月間に様々な講義や実習が組まれており基礎技術を学びます。日本における獣医サービスの仕組みや畜産概況から、様々な診断や研究に必要な技術まで盛り沢山です。そして後半2ヶ月間は個別研修へと移り、研修員ひとりひとりがテーマを選んで、そのテーマを深く学びます。ジャネットさんが選んだテーマは「家畜ウイルス病のラボ診断に係る基礎研修」でした。

(写真左:組織病理の実習風景)

フィリピンに帰国して

イザベラ州では動物疾病診断ラボ(Isabela Animal Disease Diagnostic Laboratory)を新しく開設することになり、ジャネット獣医師はその準備業務に携わることになりました。つまり機材や消耗品などの調達業務の責任者です。その業務遂行にあたり、研修中に学んだ診断に必要な機材や消耗品類に係る情報が非常に役立っています。日本で学んだ情報を元に調達業務を進めており、今年中にはラボの正式な稼働を見込んでいるところです。現在はラボが稼働

できていないため、研修で培った診断技術については未だ活用できていませんが、今後ラボでの業務が軌道に乗れば同僚の獣医師とも技術を共有し、大いに活用できると考えています。

将来に向けて

フィリピンでは2020年にアフリカ豚熱¹の発生が確認され、その後何故か7～8月頃、毎年のように各地で発生しています。イザバラ州ではまだ発生は確認されていませんが、ラボが稼働し次第サーベイランスを開始し、将来的にはアフリカ豚熱や新興感染症²に係るサーベイランスや研究を実施したいと考えています。また修士や博士などの学位取得も視野に入れており、既に修士号取得に向けて動き出しました。ジャネット獣医師は日本より帰国して未だ半年しか経っていませんが、既に故郷の動物疾病診断ラボ立ち上げという重責を担い、**研修で培った情報や技術を活用**しています。これからも同ラボの責任者として大きな成果を上げることでしょう。ジャネット獣医師のこれからの活躍が本当に楽しみです。

(写真: オープンを待つ新しいラボ)



¹ アフリカ豚熱は、アフリカ豚熱ウイルス感染によるブタの熱性伝染病。臨床症状および病理所見は豚熱と類似する。日本では2018年、26年ぶりに豚熱の発生が確認されて以来未だ制圧されていないが、アフリカ豚熱の発生はこれまで確認されていない。

² その発症がにわかに注目されるようになった感染症に対する総称。通常は新興感染症例は局地的あるいは、人物の移動による国際的な感染拡大が公衆衛生上の問題となるような感染症で、2019年に発生した新型コロナウイルス感染症はその典型例である。